



## 世界に開かれた持続可能な観光地を目指して

一般社団法人 田辺市熊野ツーリズムビューロー 会長 多田稔子



# 先駆的DMO\_田辺市熊野ツーリズムビューロー アクションプランの取組状況

## 持続可能な観光まちづくりに向けたエリアマネジメント

## 持続可能な組織運営

データ活用・生産性向上

プランA (データに基づく戦略策定)

→ 新予約システムの導入によるデータ活用の高度化、生産性向上

- ① マーケティングデータを戦略策定に反映
- ② DMO内の予約手配業務を効率化→新規事業の取組み等を可能に
- ③ ユーザビリティ向上による高度なデータ取得と予約販売促進

### 地域への経済効果の波及

データ活用・生産性向上

プランB

(情報発信)

地域住民に向けた報告会等実施

プランC

(理解促進)

地域事業者を巻き込んだ施策検討

インバウンド

プランF

(滞在日数増加)

SHIOGORIプロジェクト

地域課題解決・収益化

プランD

(観光まちづくり)

空き家対策・景観・集落保持

プランE

(需要平準化)

教育旅行・企業研修事業

地域の結び付き / 一体的な取組み  
/ 魅力を国内外へ発信

### 安定的な財源確保

財源・人材

プランG  
(財源確保)

D~Fを収益事業として確立、  
これらを基に財源計画を策定

財源・人材

プランH  
(人材確保)



# ×教育（森林環境学習）

～熊野の自然から学ぶ～

和歌山県は古来より「木の国」と呼ばれるように、森林の豊かな土地です。

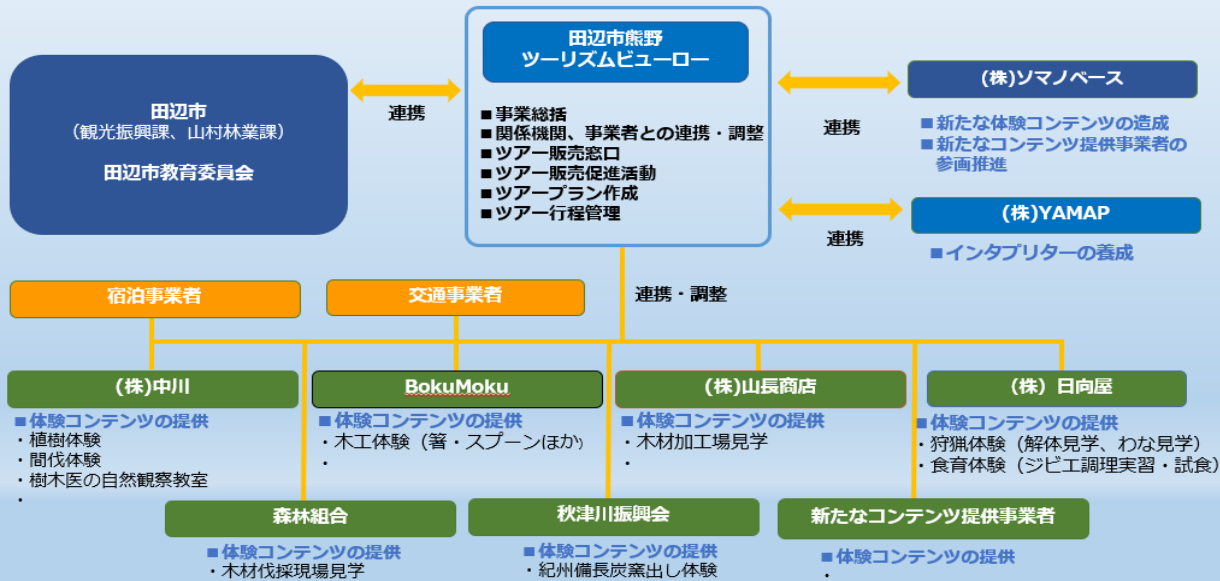
また、「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録されたように、歴史的・文化的にも貴重な文化的景観や森林景観を保っています。

森林は、CO2の吸収、水源の涵養や国土保全だけでなく、木材の生産やレクリエーションの場など、私達の生活と深い関わりを持ち、多くの恵みを与えてくれるとともに、その恵みは川から海へと循環しています。

「熊野自然学校」では、この「森林が持つ公益機能に関する学び」を目的とした、森林環境教育に関する学習カリキュラムを作成し、座学や木工体験、さらには植林や間伐等の森林でのフィールドワークにより、森林の価値を再認識し、森林との関わり方を体感し、森林との持続可能な共生社会を目指す心を育みたいと考えています。

## 事業実施体制

(一社) 田辺市熊野ツーリズムビューローがハブとなり、行政機関、教育機関、観光関連事業者、及び森林環境教育のコンテンツ提供事業者等との連携を図ることで、森林環境学習ツアーの造成を行うと共に、「サステナブルツーリズムによる持続可能な観光地」を目指した継続的な取組が実施可能となる体制を構築する。



年度	年次計画
R3	森林環境教育カリキュラムの策定・モデル事業の実施
R4	市内小学校を対象に森林環境教育プログラムの受入開始
R5	市内小学校の受入数を段階的に拡大 ⇒R8 全25校 R10 中学校
R6	県外小学校を対象に森林環境学習ツアーの受入開始





# 森林環境学習

熊野のフィールドを活かした多彩な体験  
インタープリターが子供たちの学びをサポート

育林体験



自然観察ウォーク



熊野古道ウォーク



木工体験



インタープリター養成

先駆的DMO事業 アクションプランE（需要平準化）教育旅行・企業研修事業



企業研修版の森林環境学習ツアーの開発及びマーケティングを実施。  
プロモーション手法等についても研究を行い、新たな受益者の拡大を目指すと共に、  
経営基盤の安定化を目指す。

企業研修版  
ファシリテーター  
養成